

## 2024\_1008「国立科学博物館と月（写真）」日々の理科 3715号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

月曜日の晩、上野公園の東京文化会館で、東京都交響楽団の定期演奏会に行ってきました。私はもちろん「演奏者」ではありません。もちろん「指揮者」でもないので、「観客の一人」です。定期演奏会の年間会員なので、毎回同じ席で観覧できるのです。私の席は、2階席中央に近いなかなか良い席です。この日のメイン曲は、ホルスト作曲の「惑星」でした。「惑星」は何度も聞きましたが、やはり圧巻でした。ほかにも武満徹（たけみつとおる）の曲もあり、パーカッション（打楽器）の豊富さに目が釘付けでした。中でもガラス瓶を5本ぶらさげた「楽器」を、奏者が高速で叩くのが面白かったです。

駐車場から文化会館まで少し歩くのですが、JR線の跨線橋の上から月が見えました。ちょうど国立科学博物館の左側に見えたので、撮った写真がこれです。一見「三日月」に見えますが、実はちがいます。新月（朔）が「月齢0」で「陰暦1日」にあたります。三日月は「陰暦3日の月」なので、新月から3日後ではなく、2日後の月つまり「月齢2」の月のことです。本来の三日月は非常に細く、日没後にすぐに沈んでしまうので、東京のように建物が多く明るい土地では観望が難しいのです。

この日の月は「月齢4.6」で、正確には「六日月」でした。しかし、ほとんどの方はこれを「三日月」と認識するでしょう。「三日月」と呼ぶのは誤りなのですが、「三日月型の月」と呼ぶのは間違いではないと思います。

(2024年10月上旬／台東区上野駅～鶯谷駅間跨線橋)

